

2022

年度

vol.2



四天王寺大学 日本学科



羽曳野市出土の人物形埴輪

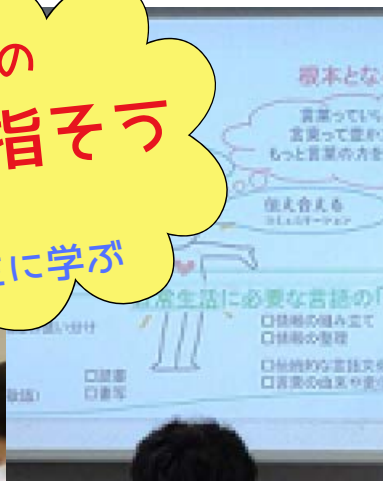
日本学科の活動をご紹介します！

社会へ羽ばたく

国語教員・日本語教員に向けて

中学校・高校の 国語教員を目指そう

プロの
中学校国語科の先生に学ぶ



小道具を準備してて

祝 教員採用試験現役合格 中高「国語」教員採用試験 －現役合格者の推移－

日本学科には、教員を目指す学生をサポートする様々な仕組みがあります。「キョーサイ合格こそプロジェクト」もその一つで、合格した上級生からの直接指導や、先生による学習講座などを行っています。その甲斐もあって、令和3年度は、中高国語受験者13名のうち7名が現役合格という、高い合格率でした。残念ながら不合格だった人も、卒業後、講師をしながら再挑戦し、多くの人が合格を勝ち取っています。大学時代の学びが花開いています。

	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度
大阪府中学校	1	2	1	3
大阪府高等学校	1	1		
豊能地区中学校		1		1
大阪市中学校	5	3		3
堺市中学校		1	3	1
奈良県中学校				1
他県中学校				1
合計	7	8	4	9

教職科目「教科教育法」では、ことばの力の発達を体系的に捉える基本や教材をくわしく研究する方法を学びます。そして、学習指導を組み立てる経験も積みます。夏学期の最終回には、中学校の国語科の先生をお招きし、魯迅「故郷」の模擬授業を体験しました。作家があえて書いていない部分に着目し、シナリオ作りを通して創造的読みを創り上げる学習指導です。それまで構想していた授業とは異なる小説の読みを経験しました。

日本語教員を目指そう オンライン日本語実習に向けて

日本語教員養成プログラムでは、4年間の集大成として「教育実習」を行います。今年はコロナ禍のため、海外提携校とオンラインで日本語教育実習を行う予定です。「日本語教育実習指導及び実習A」の授業ではその準備を行いました。当初は「難しい～！」と弱音を吐いていた学生たちも、終盤では、立派な模擬授業を行いました。教育実習本番に向けて準備は万全です！





－模擬授業の指導－

ピアタは、リメディアル教員や上級生が、授業・テスト・大学生活、などをサポートする制度です。図書館2階のラーニングコモンズというスペースに行けば、いろいろ教えてもらえます。写真は、「古典I」の模擬授業を控えた一年生が、ピアタの先輩にリハーサルを見てもらっているところです。



－レポートについて相談－

日本学科にはレポートを書く機会が多くあります。書き方がわからないとき、ピアタの先輩は頼りになります。写真は、先輩（左側2人）に「日本文化論II」学期末レポートの相談中です。「ある楽曲がポピュラーであることの論証」というテーマをどう捉えるか、論をどう展開するかについて、教わっています。

実践につながる日本学科の学び

学習研究の成果を表現発信へ

7月8月オープンキャンパス 在学生がスピーチで大活躍



オープンキャンパスでは、在学生が日本学科の学びを紹介しました。授業で、プレゼンテーションの機会を多く設けているので、飛躍的にスピーチ能力が伸びます。見やすいパワーポイントの作成も上達します。日本学科の学びの「生きた見本」として、聞きやすく、説得力のある学科紹介をしてくれます。ぜひ、オープンキャンパスでの日本学科学生の様子を見に来てください。



ゼミコンテスト 2回連続受賞



ゼミでの学修・研究の成果をプレゼンして全学的に競い合うIBUゼミコンテスト。近現代文学ゼミでは、第4回は、「夏目漱石『こころ』の先生はなぜ自裁したのか? ―ゲーテ『若きウェルテルの悩み』と比較して―」で「第3位」。第5回は、「宮沢賢治と仏教精神」を発表して「学長奨励賞」（第2位）を受賞。全員が協力して準備し、緊張感漂う中でプレゼンをする経験は、教員採用試験や一般就職試験の面接に役立つだけでなく、ひとりひとりの貴重な一生の財産となることでしょう。

地域連携活動 成果を大学イベントで発表



学園創立100周年記念イベント「古墳deIBU」で、地域連携関係授業の受講生有志が「地域文化発信チーム」を結成。地域の古墳・寺社・城跡・街道を歩き回り、宮司さんなどにインタビューを実施し、その成果を「地域文化―学生のミカタ!」と題して発表しました。日本学科の授業で学んだプレゼン力・文章力も活かされました。



集中講義「パフォーマンス実践演習」

人前で話そうとすると緊張してうまくいかないとか、初対面の人とうまくコミュニケーションがとれないといった悩みはありませんか? この科目は、そうした悩みを解消するために、身体と頭を使うエクササイズとゲームをみんなで楽しみながら取り組む集中講義です。毎年、学生たちにとって、自分自身と向き合い、殻を破るきっかけとなっています。



ここに、学びを

四天王寺大学

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

TEL072-956-3181 (代表)

続きはこちらへ 

